

# 円勝寺跡・成勝寺跡発掘調査現地説明会資料

公益財団法人 京都市埋蔵文化財研究所

2017年1月14日

所在地：京都市左京区岡崎円勝寺町（京都市美術館敷地内）

調査期間：2016年10月24日～2017年3月31日（予定）

調査面積：約820㎡

## はじめに

この調査は、京都市美術館再整備計画に伴う第3期埋蔵文化財発掘調査です。調査区は、昨年度・一昨年度に実施した第1期・第2期調査地の南側に位置します。調査区は3箇所に分かれ、北から1区・2区・3区としています。現在は1区と2区を調査中です。

調査地は、平安時代後期に白河の地に建立された六勝寺（寺名に「勝」の字をもつ六つの御願寺）のうちの円勝寺と成勝寺の推定地です。第1期・第2期調査では、円勝寺北限の東西溝のほか、南北溝、建物跡、柱列、井戸、土坑などが検出されています。

## 見つかった主要な遺構

### 1区

**土坑93** 東半部で見つかった東西約0.7m、南北約0.8mの不整形な土坑です。深さは検出面から約0.2mあります。中から鎌倉時代の土師器皿が多量に出土しました。

**土坑109** 東半部で見つかった東西約1.1m、南北約0.8mの不整形な土坑です。深さは検出面から約0.3mあります。中から鎌倉時代の多量の土師器皿のほか、桃の種、薄板で編んだ籠、魚の骨などが出土しました。

### 2区

**溝220** 北半で見つかった南北方向の溝です。第1期・第2期調査で見つかった南北溝の南延長部分にあたり、後述する東西溝230・240と逆「T」字状に接続します。平安時代後期から室町時代前期の間に3時期の変遷が確認できます。最大幅は約5.0m、深さは検出面から約1.3mあります。2時期目の段階には、長径0.3～0.8mの石を積んで護岸しています。

**溝230** 中央部で見つかった東西方向の溝です。南北溝220と接続し、同様に3時期の変遷が確認できます。最大幅は約10.0m、深さは検出面から約1.5mあります。2時期目の段階には北岸に長径0.3～0.8mの石を積んで護岸しています。

**溝240** 中央部で見つかった東西方向の溝です。南北溝220、東西溝230と接続し、同様に3時期の変遷が確認できます。最大幅は約5.0m、深さは検出面から0.7～1.0mあります。

**溝214** 北東部で見つかった東西方向の溝です。東西溝240に平行しています。幅は約1.0m、深さは検出面から約1.0mあります。平安時代後期に埋まっています。

**建物1** 北西部で見つかった小規模な掘立柱建物です。南北2間、東西2間分を検出しました。

**墓233** 調査区南東部で見つかった木棺墓です。掘形は長方形で、東西約2.0m、南北約1.0mあります。棺の大きさは東西1.3m、南北約0.5mあります。鎌倉時代のものと考えられます。

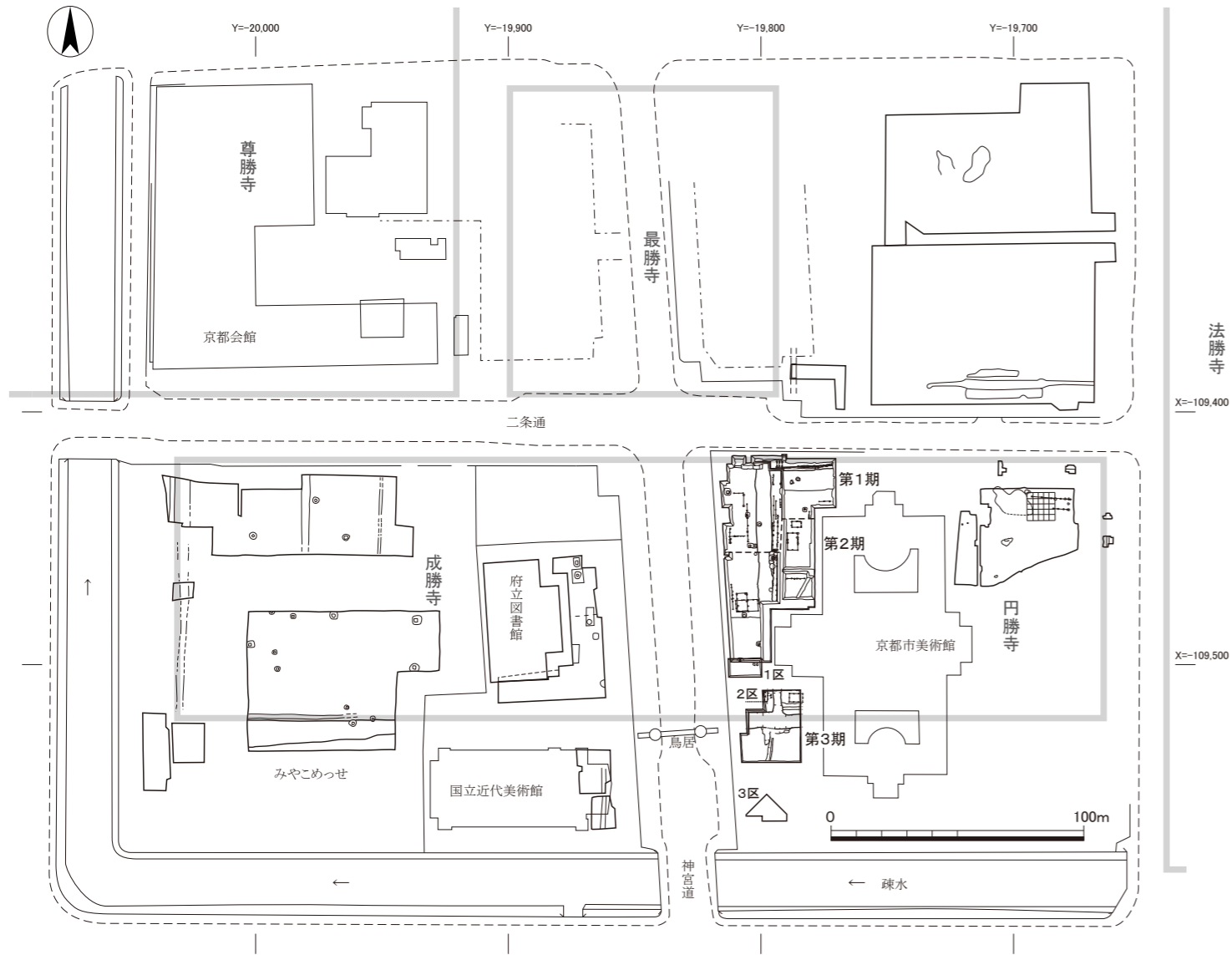
## まとめ

今回の調査で見つかった東西方向の溝230・240は、西方約150m地点の「みやこめっせ」建設時の発掘調査で検出されていた東西溝と規模や埋没時期が類似し、連続するものと考えられます。さらに、この溝230・240より南側には平安時代や鎌倉時代の遺構・遺物が希薄であることなどから、円勝寺の南限溝である可能性が高いと考えられます。第1期調査で北限溝を検出しており、円勝寺の寺域の南北幅が約100mと確定したことは大きな成果です。

また、南北方向の溝220は、第1期調査からの成果を合わせると約100mにわたって続いていることがわかりました。溝からは多量のベンガラ（御堂などの柱に塗布される赤色顔料）や鍛冶炉の送風口である鞆羽口などが出土しました。溝の両側で見ついている小規模な建物や井戸は、寺の修理や維持管理を行う施設であった可能性があります。第1期・第2期調査段階では、この溝が円勝寺と成勝寺の寺域を限る南北溝の可能性が高いとされてきましたが、文献史料に記された円勝寺に存在した三つの塔のほか金堂・五大堂・九間飛薨・六時堂・二階門・築垣・西面門・鐘楼など多数の堂宇が、どのように配置されるかが未だ不明なこともあり、円勝寺の西限であるかについては、今後、周辺調査も含めた考古学的な検討と文献史料との検討を行い、再考する必要があると考えています。



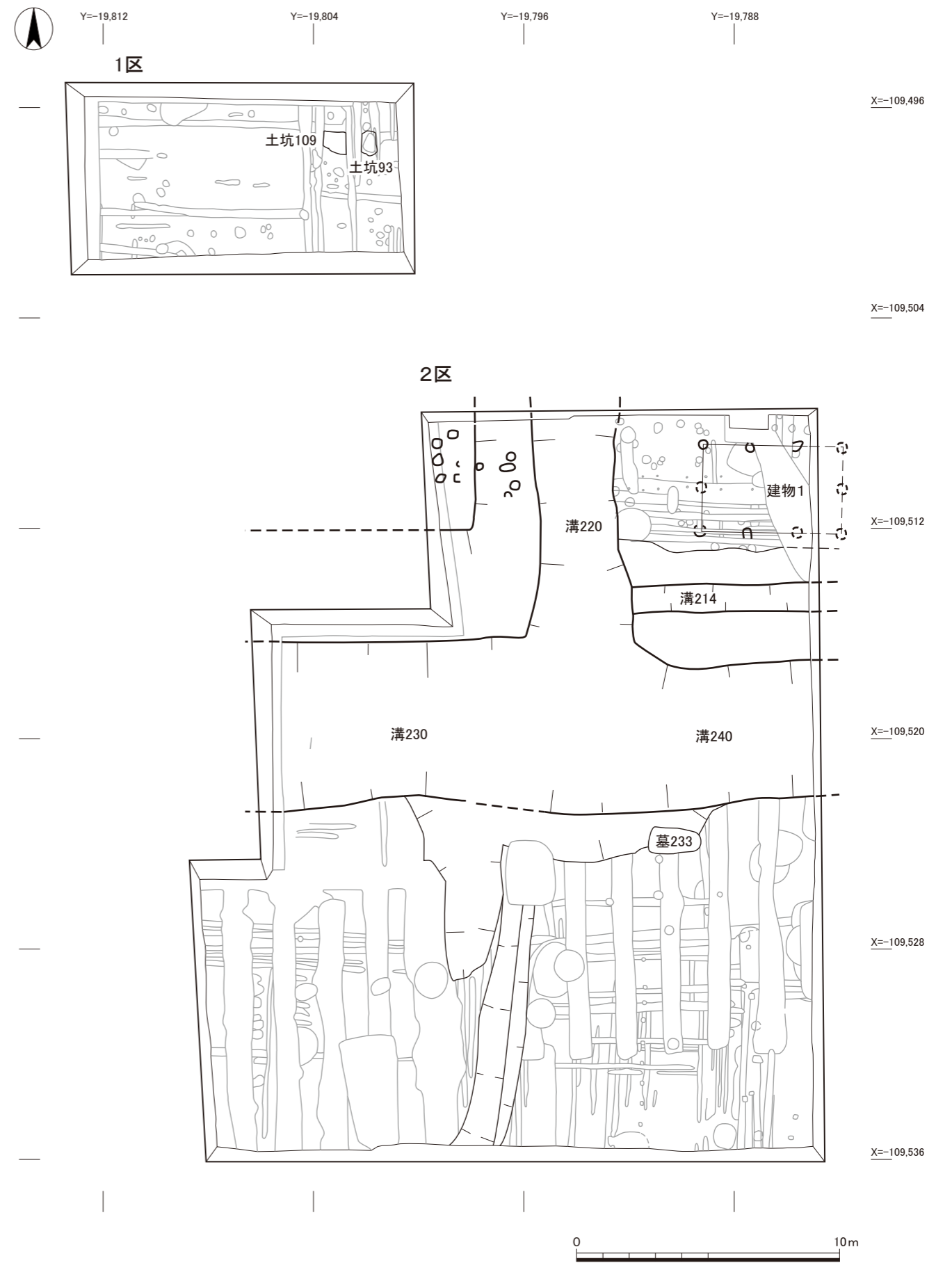
溝220・230コーナー部石組護岸（南西から）



調査位置図(1:2,500)

白河殿・六勝寺関連年表

上皇	年	事象
白河	1075	藤原師実が白河天皇に別業を献上、法勝寺造営開始〔法勝寺供養記〕
	1077	法勝寺金堂ほか造営〔法勝寺供養記〕
	1083	法勝寺塔ほか造営〔扶桑略記〕
白河	1095	白河上皇が御所（白河南殿）に参入〔中右記〕
	1102	尊勝寺造営〔中右記〕、この頃から白河に地割が施工される
	1114	白河南殿御堂（蓮華藏院）建立〔中右記〕
	1115	白河泉殿新造〔中右記〕
	1118	最勝寺造営〔中右記〕
	1118	白河北殿新造〔中右記〕
	1128	円勝寺造営〔中右記〕
鳥羽	1132	平忠盛得長寿院を造進、宝莊藏院御堂造営〔中右記〕
	1139	成勝寺造営〔帝王編年記〕
	1141	歓喜光院造営〔百鍊抄〕
	1143	白河押小路殿造営〔台記〕
	1149	延勝寺造営〔本朝世紀〕
	1156	白河北殿炎上〔兵範記〕
後白河	1184	白河押小路殿が鳥羽院御所から後白河法皇御所となる〔吉記〕
	1185	大地震により白河地域壊滅〔玉葉〕
	1188	白河押小路殿が一時法皇御所となる〔山槐記〕
後鳥羽	1208	法勝寺九重塔焼亡〔百鍊抄〕
	1213	法勝寺九重塔再建〔明月記〕
	1221	大火により六勝寺等焼失〔百鍊抄〕
	1231	尊勝寺焼亡〔明月記〕



第3期調査 1区・2区平面略測図(1:200)